

〔創造部門〕

1. 氏名 ひがしやま あきら
東山 彰良 (作家)

2. 年齢 50歳 (H30.10.19現在)

3. 住所 小郡市



【経歴及び選考理由】

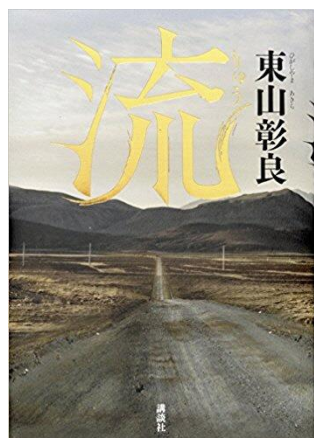
台湾台北市生まれ。9歳で福岡市に移住し、西南学院大学経済学部卒業後、東京での航空会社勤務を経て、西南学院大学経済学研究科修士課程、中国吉林大学経済管理学院博士課程に学ぶ。中国吉林大学経済管理学院在籍中に執筆活動を始め、平成14年に『タード・オン・ザ・ラン』で「第1回このミステリーがすごい!大賞」銀賞・読者賞を受賞。翌15年、同作を改題し、20万部突破のベストセラーとなった『逃亡作法 TURD ON THE RAN』で作家としてデビューする。

以降、現在まで多くの小説を執筆し、数々の文学賞を受賞するが、中でも平成27年に「第153回直木三十五賞」を受賞した『流』は、氏の故郷である台湾を舞台に、主人公の青年が祖父の死の謎に迫る姿を描いた作品で、直木三十五賞選考委員から「知らないはずの台湾の風景が鮮やかに目の前に立ち上がってくる」「選考に関わって以来の最高作」「20年に1回の傑作」と称賛され、選考委員満場一致での受賞となった。

さらに、平成29年に刊行した、1984年の台湾と2015年のアメリカを舞台に4人の少年たちの運命を描いたミステリー『僕が殺した人と僕を殺した人』で、「第34回織田作之助賞」、「第69回読売文学賞小説賞」、「第3回渡辺淳一文学賞」を受賞し、3冠を達成する。

このほかにも、福岡県の観光PRを目的に7名の著名人が福岡県の食や歴史、文化を盛り込んだ短編小説を配信するインターネット特設サイト「ぴりから」(配信：福岡県、平成28年2月配信)の執筆者の一人として小説を描き下ろすなど精力的な創作活動を続けるとともに、福岡市内の大学にて中国語講師を務めるほか、講演会講師やラジオ番組へのレギュラー出演など幅広い活動を行っている。

このような氏の多彩な活動は、文学分野において県民に多くの影響を与えており、本県文化の普及・振興に大きく貢献している。



『流』



『僕が殺した人と僕を殺した人』

<受賞歴>

- ・『タード・オン・ザ・ラン』
第1回「このミステリーがすごい!大賞」銀賞・読者賞 (平成14年)
- ・『路傍』
第11回「大藪春彦賞」(平成21年)
- ・『ブラックライダー』
「このミステリーがすごい!2014」第3位 (平成26年)
第5回「AXNミステリー闘うベストテン2013」第1位 (平成26年)
第67回「日本推理作家協会賞」候補 (平成26年)
- ・『流』
第153回「直木三十五賞」(平成27年)
第13回「2016年本屋大賞」候補 (平成28年)
- ・『罪の終わり』
第11回「中央公論文芸賞」(平成28年)
- ・『僕が殺した人と僕を殺した人』
第34回「織田作之助賞」(平成29年)
第69回「読売文学賞小説賞」(平成30年)
第3回「渡辺淳一文学賞」(平成30年)
- ・福岡市文化賞 (平成29年)

(参考) 創造部門：個性的・創造的な文化活動を行い、優れた業績を残し、県民文化の向上・発展に貢献したもの